

人々の新しいつながりを求めて

代表理事

安田尚道



自主的な公共の形成

私たちが学習支援活動を開始してから早いもので4年の月日が経ち、現在5年目に入っています。これは with you の歴史の四分の一ほどになります。私たちは、市民農園「とまと倶楽部」や花植えボランティア「花友」、震災支援「子ども元気プロジェクト」、病後児保育「さくらんぼキッズルーム」など、試行錯誤を繰り返しながら人々の生活を支援する事業を進めてきました。地域社会や企業など、国家と個人の間の中間組織が人々のよりどころになりがたくなっている現在、多様な NPO が地域課題を解決するミッションに基づきお互いさまの関係をつくり、人々の人生を豊かにするお手伝いをしています。これは、市民が行政とは異なるもう一つの公共を自主的に創り上げていることでもあります。私たちは茨城県でささやかにこの一端を担ってきました。

遠くからの支援と近くからの支援

先日、学習支援に通う塾生が「行政は遠くから私たちが支援してくれ、NPO は近い立場で私たちが支援してくれる。本当に NPO が自分の間近にあるとは信じられなかった」と言ってくれました。この言葉は行政と NPO の協働関係を的確に表し、この協働関係が子どもたちを支援するだけでなく、社会を考える契機ともなっていると思い、私はうれしくなりました。議会と行政を含む政治は法をつくることにより人々を支援するメニューを決定、作成し、この実施のための枠組みをつくり、自らも執行する。まさに、遠くから支援しているのです。NPO はこの枠組みと行政による実施を生活実態に合うように実質化し、この枠組みをより良くするために修正を加え、政策提言をする。NPO は人々の生活に近いところで支援しているのです。塾生はこの両輪で公共が形成される時代になっていることを苦勞しているからこそ、実感していると思います。

活動を通したみんなの学校

この実感は社会のイメージを形成する一助となっているのではないのでしょうか。お互いさまの関係を行政と人々が創り上げ、少しずつ塾生個人の将来を見通すことができるようになる。本来なら、学校がその場であるはずなのですが、これが学校という枠組みだけでは保障されない難しい時代になっています。NPO はもう一つの社会を形成するための学校となっているのではないのでしょうか。しかも、NPO は子どもたちだけでなく、支援者にとっても学校となっています。学習支援の講師、学生、子ども食堂の支援者、花友を担う市民、病後児保育を担う保育士、看護師の皆さんそして私たちスタッフにとって、NPO はたとえば教え方に悩むなど、事業運営のための試行錯誤の場であり、自分たちの活動の社会的な意味を模索する場でもあるからです。

新しいつながりを創り上げるために

今回、私たちは内閣府の後援する「子どもの未来応援基金」による第3回未来応援ネットワーク事業の採択団体に再び選ばれました。これに限らず、私たちの地道な諸活動は様々な行政や政府、財団そして多くの市民から評価され、認められてきていると思います。このような後押しがあるからこそ、人々による自主的な公共活動、この活動を通した学校としての NPO が地域に人と人の新しいつながりを創り上げることになると思います。皆様、これからもよろしくお願いたします。

交流会「一緒に・茶ロン」のご案内

この度、with youの活動にご協力いただいている皆様と交流を深めるための「一緒に・茶ロン」を開催することといたしました。

お茶菓子、飲み物等をご用意いたしますので、ぜひご参加ください。詳細はチラシをご覧ください。



☆ クリスマス会開催 ☆

H30年12月25日(火) 日立市教育プラザにおいて、「のびのびwith you塾」のクリスマス会を開催しました。

参加人数：42人(子ども19人、大人12人、ボランティア12人)

常磐大学のお兄さん、お姉さんたちが考えてくれたいろいろなゲームで遊び、最後にサンタさんからプレゼントをもらいみんな大喜びでした。



子ども食堂 多賀地区オープン！！

4月より、「with you塾」の生徒を対象とした、子ども食堂「キッチン・さくらんぼ」が多賀地区にオープンいたします。

H31年4月よりスタート

曜日：毎月第3水曜日

内容：おにぎりなどの軽食

場所：教室



会員募集

- 正社員 個人 5,000円 団体 10,000円 学生 3,000円
 - 賛助会員 個人 1口 5,000円を1口以上
団体 1口 10,000円を1口以上
 - 情報会員 個人 3,000円 団体 5,000円
- ※詳細は事務局にお問い合わせください

編集後記

今年は特にインフルエンザが猛威を振っています。手洗いマスクはもちろんですが、腸内環境を整え免疫力を高めることも予防になるそうです。我が家は、毎日のヨーグルトや納豆で実践中です。【事務局】

病後児保育 ～看護師の声～

さくらんぼキッズルーム 佐久間 綾

共働き家庭等が増えている今では病後児保育はニーズの高い場所になっていると思います。

さくらんぼキッズルームも今年で3年目になりましたが、登録者数や利用者数も少しずつ増えています。季節や病気の流行により毎月の人数に変動はありますが、対象児がゼロという月はありません。

預かるお子さんが毎回違うので病気の症状や体調の他に、お子さんの性格を把握し、どのように見守り、保育をするのか計画を立てます。

お子さんも普段とは違い1対1の環境になることもあり不安を感じて泣きっぱなしのこともあります。その中で距離のとりかたや声のかけ方などお子さんによっていろいろな違いに気付くことがあります。反対に1対1の保育を行うことで先生を独り占めできるという特別感に満足しているお子さんもいます。

病後児保育は楽しい時間を過ごしながら落ち着いて身体を休ませることが大切だと思っています。そのためお子さんに合った環境作りができるよう努めています。病気のお子さんを預かるため常に緊張が伴い不安もありますが、お子さんの笑顔や元気に帰っていく姿を見ると嬉しく思います。また親御さんに感謝の言葉を頂いたときは病後児保育をやってよかったと実感します。今後も働いているご家庭の助けになっていけるよう頑張っていきたいです。

